

全国的な看護師不足の中、山梨県立中央病院は本年度から、専従の人材確保対策担当者配置し、看護局の情報発信や看護師養成学校との連携強化に力を入れている。同担当を務める土肥良子主任看護師長は「一人一人を大切に、丁寧

医療最前線

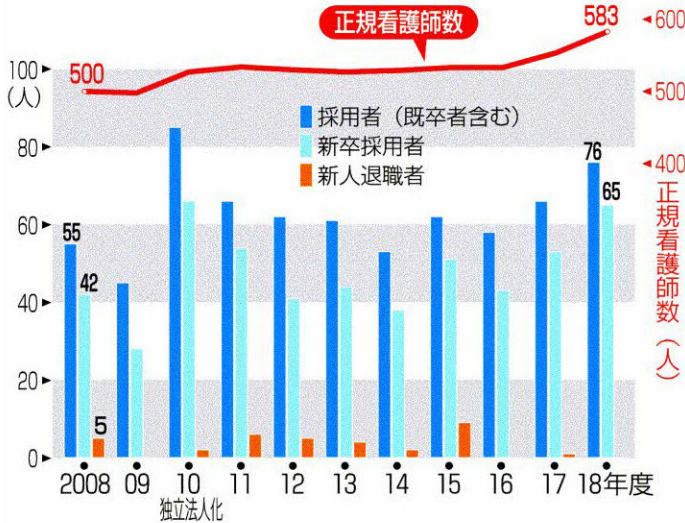
県立中央病院から
〈169〉

土肥良子主任看護師長
人材確保対策担当



に育成し、人材の確保と定着を図りたい」と話す。これまでは、看護局に委員会を設置し、人材確保対策を講じていたが、体制を強化した。看護局長を務め

山梨県立中央病院の看護師採用状況



学校と連携 職場環境改善 看護師確保へ専従担当者

る飯野みゆき副院長は、「県とが責務」と説明する。の基幹病院、高度急性期病院として、最大限の看護体制を保ち、看護の質の向上を図り、看護師が生き生きと働ける環境整備を行うこ

説明会、インターンシップの開催、中高生の病院訪問の受け入れなどを担当している。また、看護師養成学校との連携を強化。昨年10月には、養成学校の教員を

招いた病院参観を初めて実施した。土肥主任看護師長は「病院で働いている卒業生の様子を見てもうことで、送り出す側の先生の当院への理解が深まり、就職支援につなげてもらえればうれしい」と話す。看護局では、3年前から「新人看護師の退職ゼロ」を目標に掲げ、看護師2人1組で複数の患者を担当するパートナーシップナーシングシステム(PNS)や、同期の絆を深めることを目的とした宿泊研修を導入。各病棟では、新人一人一人の成長度合いや強み、弱みを理解し、それぞれに合ったサポートに取り組むなど、働きやすい職場環境を整えることで離職防止に努めている。

こうした取り組みが奏功し、2015年度に9人いた新人退職者は、翌16年度はゼロ、昨年度は1人と大幅に減っている。新卒者の採用は本年度65人(前年度比12人増)となるなど、近年は増加傾向。全体の看護師数も583人(同30人増)と、10年前より14・2%増加した。